

道徳通信

No.13 2022年(令和4年)10月24日(月)



学習日：10月20日(木) 内容：「金語楼さんのこと」

1907年に6歳でデビューした柳家金語楼さんは、昭和の三大スターと言われた人物である。金語楼さんは亡くなる4か月前まで、多忙なスケジュールを調節しながら老人ホームの慰問を行っていた。高齢の体には負担が大きく、体調を崩していたが、それでも「ギャラのない出演だからこそ信頼で成り立つもの」と言って、自分の意志で決定し舞台に立ち続けた。その姿に共感し、金語楼さんから学び取りたい。

【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

自分のことを考えるのは当たり前。それに相手はどう思っているかなどを考えつつ責任をもって行動していきたいです。

時間に間に合うようにする、約束を守る、時と場合を考えて行動することで、責任をもって行動できると思うし、信頼関係も成り立つと思う。

自分だけでなく、ほかの人のことも考えた行動ができるようになりたい。

まずは、自分の役割をきちんと行って、次に他の人のフォローなどをする。自分のことを完璧にしてから次の段階へ進む。

責任をもって行動するという事は相手や周りの人のことを考えることだと思います。金語楼さんはそのように行動しているので、信頼されているんだと思いました。

どんな時でも、誰かが見ていないときでも、みんなのために行動して、役に立つことで、責任をもって行動ができると思います。

発言したりする前に正しい判断することが大切だと思いました。

楽な道を選ぶのではなく、苦勞したからこそ見えるいい景色があると信じて行動することが大切だと思いました。

「だって～」という言い訳をしたことはありますか。「だって～」の後にくる言葉には自分をかばい、他人や環境のせいにする言葉が多くきます。この負の言葉を使っているうちは、自分の悪いところが見えませんから、成長できません。自分のできていないことに目を向けることは辛いことですが、言い訳をすることなく自分の言動に責任を持てる人になりたいものです。